## LOCAL MONEY 2

地域交換取引制度·LETS (Local Exchange Trading System)

## 相互扶助とコミットメントにもとづくLETS

## 西部 忠 北海道大学助教授

この10年,世界経済は大きな変動と混乱を経験した。金融のグローバル化や市場の自由化は企業や個人の自己責任を高め、経済を効率的にするといわれてきた。しかし、日本でのバブル崩壊と不良債権問題、アジア、南米、ロシア、アメリカでの通貨危機からもわかるように、それらは実際には経済を不安定化し、不況や失業という形で人々の生活にも深刻な被害をもたらした。

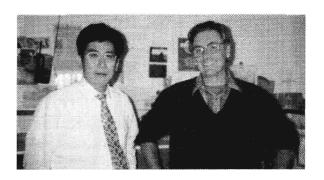
市場や政府にすべてを委ねることはできないとするとどのような経済社会をめざすべきか。相互扶助とコミットメントにもとづくLETSがその解答の一つだ。LETSは、カナダ・ヴァンクーヴァー島のコモックス・ヴァレーで1983年にマイケル・リントン氏により考案された。その基本的仕組みや実際の運用法については前号で林氏が紹介しているし、私も別のところで説明したので、そちらをご覧いただきたい。LETS

- 1) 流通圏が限定された地域通貨の利用
- 2) 無利子で移転不可の貨幣
- 3) 信用創造なき貨幣

には次のような特徴がある。

- 4) 自律分散型ネットワーク
- 5) 参加者間のコミットメントと信頼
- 6) 貨幣保有動機の多面化
- 7) 価値・文化メディアへの発展可能性など ここでは4)と5)に絞って説明しよう。

LETS は、政府が上から作りだす「制度」でも、「政策」 により集権的に制御できるものでもない。それは自律 分散型ネットワークである。われわれが日々使ってい る日本銀行券。日本銀行は,これを国家の信用力を背 景に独占的に発券し、景気動向を見ながらマネーサプ ライや公定歩合を調節する (金融政策)。日本で生活 するためには,だれもがそれを使わざるをえないし, その受け取りをだれも拒否しない。また、だれもが金 融政策の影響を受けている。このように通常の制度や 政策は集権的で他律的だ。LETS の考え方はこの対極 にある。個人が自発的に参加(退出)できるし、そこ では自分の判断と責任に基いて,個々人が地域通貨を 発行し、財・サービスを取引する。取引のネットワー クはこうした個人の自由な判断にもとづく行動の結 果として生まれる。自律性と分散性が LETS の特徴で ある。しかも、LETS 参加者間の取引関係は市場の取



<西部氏と LETS の考案者マイケル・リントン氏>

引関係とは異なる。 例えば、太郎が次郎に芝刈りサ ービスを提供しその代金を10グリーンドルとしよ う。すると、太郎の口座には10グリーンドル(黒 字)が、次郎の口座には-10グリーンドル(赤字) が記録される。しかし、太郎の黒字は次郎にたいす る債権ではないし、次郎の赤字は太郎にたいする債 務ではない。次郎の赤字は LETS に対する義務ではな く, コミットメント (コミュニティに対する責任) の深さを表す。次郎は、LETS に何らかの財やサービ スを提供することにより、赤字を減らす努力をする よう全ての参加者から期待されている。リントン氏 の言葉を借りれば、「それは、コミュニティの人々に よるコミュニティの人々への約束」である。市場の 信用関係は法律上の一対一の権利・義務関係である が、LETS では個人が常に参加者全員に関わっている。 LETS の特性上、どこかに黒字があれば必ずどこかに 赤字があるので、参加者は常に互いに支え合ってい るわけだ。LETS はコミットメント、信頼、相互扶助 を基盤とする。

LETS の利点は、おカネがなくとも地域通貨を発行して財やサービスを手に入れられるところにある。といっても、参加者の中には利己的な人もいて、大きな赤字を残したまま退出してしまうことはないかと疑問に思うかもしれない。ところが、リントン氏によれば、彼の長年の経験でもこうした事例はまれだという。それは、参加者が地域での自分の評判を大事にし、また倫理的非難を恐れるからであろう。だが、それだけでは全てを説明できない。参加者は、助け合いながら、友人、隣人、コミュニティにたいする責任を果たそうとしているのである。

(西部氏は、昨年、北海道経済の活性化策に関する調査研究の委託を社団法人北方圏センターから受け、地域通貨の調査のためにカナダのLETS考案者のリントン氏を訪ねました。参考文献が添えられていましたが、紙面都合上割愛します。必要な方は、ひとまち社にお問い合わせ下さい)